

難民救援情報誌

# Trial & Error トライアル・アンド・エラー No.26

— 試 行 錯 誤 —



タケオ省、診療所の井戸掘り現場に集まる子供達 撮影・熊岡

## カンボジア訪問

熊岡路矢

3月17日から一週間カンボジアを訪問し、タケオ省で行なわれている井戸掘りプロジェクトの現場を見てきた。

現在「西側」から救援団体関係者がプノンベン（カンボジア）に入るには、次の経路が便利だ。①シンガポールからワールドビジョン（アメリカの民間救援団体）の物資輸送機に乗るか、②週一便のエールフランス機でホーチミン（ベトナム）まで飛び、プノンベンとの間はICRC（赤十字国際委員会）の輸送機またはベトナム航空を利用する。今回は日程の都合で後者の方法がとられた。

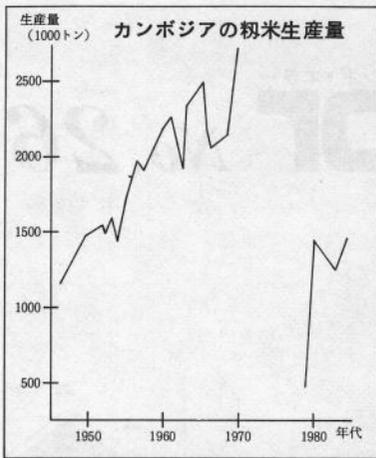
バンコクからホーチミン市（旧サイゴン）へ向かうエールフランス機は、カンボジア上空を通れない

ため、海上を迂回してベトナム上空に入る。タンソニェット空港の一面には、迷彩色を施した飛べそうもない飛行機が集められており、終わって8年にもなる戦争の面影をとどめている。

空港での検査の後ICRCが借切っている物資輸送機に乗込む。この小さな飛行機は、プノンベンまで200km余りを45分間で飛ぶ。上空から見る印象では、乾いた茶色の土壌を主に、田、畑、林などの緑と、池や川の泥水が混在している。刈入れが終わった後なので緑の面積は少ない。

首都プノンベンにて

美しかったであろうプノンベンの街並は、修復され得ないまま現在約40万人といわれる人口を吸収し、



タケオ省カンダンの診療所に掘った井戸

人々の生活と生業の活気を感じさせていた。市場には商品が溢れ、タイからの密輸品もみられた。中国系の人々が経営する飲食店、電気店、自転車屋、機械屋、くつ屋なども徐々に形になり始めている。

男性の多数が、亡くなったり行方不明になったり国外脱出してしまったのであろう、多くの店では女性が主力となっている。

通貨は紙幣のみで、公式比率では1米ドル(約235円):4リエルであるが、町の実勢(闇比率)では35~38リエル位といわれている。1リエルは約7円相当。カンボジア人の給料は、大臣クラスで月300リエル、外務省の通訳で月200リエル(6米ドル)、救済団体付の運転手が100~120リエルといわれている。タケオ省の保健婦さんは月60リエルであった。露店のソバが5リエル、ご飯ものが10リエル、カンボジア製たばこが1箱10リエルする。給料だけではとても暮せない。物を売食しているか、何らかの副業をもっていると推測される。

#### JVCのカンボジア国内への援助

1981年にJVCは広島在住のE・ハンプトン女史および、西本願寺の支援を得てCARE(アメリカの民間団体)を通じて、カンボジアの小学校に学用品などを送った。82年1月星野昌子事務局長が上記援助の査察をかねてカンボジアを訪問し、カンボジア政府関係者および国際機関、民間救済団体の現地代表と話し合う機会を持った。

その結果'82年JVCは西本願寺の協力を得てCAREを通じ、灌漑工事のための材料(セメント、鉄棒など)と、技能訓練のための工具・教材キットを送った。また「きれいな水」を確保するための井戸掘り事業を計画していたOXFAM(イギリスの民間救済団体)に対してJVCが技術者を派遣すると共に、

MIRC(モラロジー国際救援運動推進委員会)が井戸掘り機械(利根社製)TDC-1Gの援助を行なうことが決定された。

予定より遅れたが、井戸掘りプロジェクトはフルに稼動している。

今回のカンボジア訪問は、MIRCのプロジェクト査察に同行する機会を得て実現した。

プノンペン政権は国連で承認されておらず、日本を含む多くの西側諸国政府から認められていない。しかしすでに10以上の西側の民間団体が、カンボジア国内で活動している。(T/E15号資料参照)政治的に中立な民間団体は、自国政府の政策にとらわれず、現地の状況に即した迅速な対応ができる。

#### きれいな飲み水と農業用水

カンボジアの農村部で、最も切実に求められているのは2つの意味で「水」である。1つは安心して飲める「きれいな水」。池・川の水や雨をためた水では、煮炊きのための燃料の不十分な事、衛生知識の不十分な事もあって、下痢など消化器系の病気が絶えない。村で飲んだお湯やお茶も泥色に濁っていた。

もう1つは農業のための水利=灌漑という意味での「水」である。堤防や水門が壊れたまま放置されているので、水の制御ができない。

またOXFAMが寄贈した灌漑のための水ポンプ1,900台以上も、①良質のエンジンオイルの欠如②修理・整備のできる技術者の欠如③交換部品の欠如のために、30%以上が作動不全・未修理の状態だ。

農民の健康と生業に直結する、2つの水の事業が地域の診療所建設、それに伴う公衆衛生の普及と並んで重要である。その他に、農村の小学校への教材、学用品の提供なども必要とされている。

農村で会う大多数の人々は、大人も子供も粗末な

最少限の衣服でやせた体を包んでいる。ただ救いは子供達をふくめ人々の表情が明るくことで、このことは貧しくあっても飢餓の状態からは自由であることを物語っている。もともと自然の豊かな土地で、自給自足的な農村共同体で生活を続けてきた人々だけに、健康と農業と基礎教育に関する基本的必要が満たされれば、平和で人間的な生活は最低保証されるであろう。

女性と子供が目立つが、'83年には人口700万人に達する。そして、'82年には米の生産高は156万tとなり最盛期の'68年の2分の1、'63~'67年の5分の3まで回復した。とはいえ、国づくりの中心となる知識人、専門家、技術者の多くを欠いた現在のカンボジアにとって、'67~'68年のレベルを目標とする復興すら、かなりの年月がかかるであろう。

## カンボジアの村では

### インタビュー

Q：カンボジアの農村の水事情は——？

A：これまでに17本の井戸を診療所に掘ったんですが、よい水・きれいな水を得るために井戸はいくつ掘っても足りないです。また灌漑用の水路などが壊されたりして、機能していないのです。これらの修復は誰かがいつかやらなければならない事なのです。台風がくると現在のままでは稲が水につかたり倒れたりしてしまい、多大な被害を受ける恐れがあります。状態は改善されつつありますが、5年かかるか10年かかるか——。

Q：一番必要とされているのは何でしょうか——？

A：とにかく医者がない、看護婦がない。そして薬や器具も不足しているんです。村には、ある程度医療知識のある人がいて、頭が痛い者には鎮痛剤を与えるくらいはできるのですが、ちゃんと診察できる者がいない。頭が痛い熱があるといっても結核かもしれないし、それを診断できない状態です。

Q：村人の栄養状態は——？

A：客観的に良いとは言えないですが、今年は米が十分に収穫できたので、食糧は足りています。でも貯えがないので、洪水など災害があったら最悪です。

Q：子供たちの教育は——？

A：学校教育についても、まだまだです。先生と呼べる人が足りず、基本的な学用品も不足しています。黒板とかノート・ボールペンなどは東欧諸国とか、

タケオ省における深井戸の掘削は順調に進んでいる。OXFAMが建てた40の診療所（西洋医療と薬草による調剤が行なわれている）に対して一本ずつの深井戸設置を行い、'83年3月までに17本が完成した。

すでに井戸が稼動している同省内バティ郡やトラムコク郡の保健婦さんからは、池や川の水・雨水だけを飲んでいた頃より、下痢など消化器系の病気は20~25%減少したという報告を受けた。この地域に多い疾病は、①熱病、②ハシカ、③下痢、④マラリア、⑤結膜炎、⑥鉤虫などの寄生虫（子供に多い）、⑦結核、⑧胃痛・腹痛など。栄養障害もしくは、眼病から片眼失明している子供も見うけられた。農村で必要とされている医師、看護婦、助産婦、保健婦、薬剤師などについてはプノンペン市の医療訓練センターを通じて育成中であるが、絶対的に数が足りない。

JVCのメンバーとしてカンボジアで井戸を掘っている箕田健一ボランティア。一時帰国中のところを話を聞かせてもらった。

救援団体の関係者と話し合う箕田さん  
プノンペンにて



ソ連が援助していました。黒板がなく壁に、黒ペンキを塗って間に合わせていたり、ノートがなく子供たちが石板を使っていたりします。教室も、古い建物などが利用されたり、ニッパヤシで建てられています。

プノンペン政府は、初等教育に力を入れていて、就学率は比較的高く、むしろ東北タイなどよりいいようです。学校では、フランス語・英語など外国語は教えていません。

Q：その他、村人のようすで特に気をついたことは？

A：カンボジアはタイなどと同じ仏教国ですが、お坊さんは以前のように尊敬されなくなりました。ようです。

タケオ省は戦闘が行われているところから離れていて、ベトナム兵の姿を見かけることもあまりありません。ただ治安がよいとは言えず、村には自衛団とか銃を持った民兵がいます。しかし僕らは身の危険を感じたことはありません。人々は平穏な生活を取りもどしています。

# レバノン被災民調査報告——2 竹内俊之

「1983年1月10日、私はシリアのダマスカスより乗り合いタクシーでレバノンのベイルートに向っていた。昨年6月のイスラエルのレバノン侵攻によって被災した人々、レバノン難民、パレスチナ難民の救援状況の調査が目的であった。1年半前インドシナ難民のニュースに触発されてタイまでやってきた私にすれば今回のレバノン行は何ら疑問をはさむ余地のない自然のなりゆきのような思われた。——」

前回(T/E25号)の「難民キャンプの状況」にひき続き、その調査報告をお届けする。

## 国際機関の活動

**UNRWA** United Nations Relief and Works Agency for Palestine Refugees in Near East 国連パレスチナ難民救済事業機関。1950年設立。シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル占領下の西岸地区、ガザ地区のパレスチナ難民1,925,726名('82年6月現在)を対象に援助活動を行っている。UNRWAの難民の定義は、「1948年の戦争の勃発前、少なくとも2年間パレスチナを通常の居住地としていた者で、この紛争の結果として住居と生計を立てる手段を喪失した者」となっている。

①食糧配給、小麦、米、油等。'78より基本配給量を減らし「特に困窮している場合」として、寡婦、孤児、老人、障害者、慢性疾患を持つ者に重点を置いた配給方法がとられている。このカテゴリーに属する者は他のサービスに関しても優遇される。

②教育、小・中学校の教育、職業訓練、教師養成、大学への奨学金、就学前教育、青年活動等をUNESCOの協力を得て実施している。'81.7月から一年間のUNRWAの予算の57.8%がこれに充てられた。

③保健・医療、難民キャンプ内外での無料の診療活動、母子健康管理や学校での衛生教育、看護婦の養成を行なっているが、絶対的に不足している。また600~700カロリーの補助給食も実施している。

④ソーシャル・ワーカーによるサービス、女性のための裁縫センターや幼稚園等、また戦災で損傷した家屋の修理材料の供給。

各国のUNRWAに対する分担金の総額に占める割合は、アメリカが一番多く38%次いでEC16%、日本6%となっている。NGO(民間団体)の拠出金は4%弱である。UNRWAのスタッフは、本部職員109名、現地職員16,668名である。

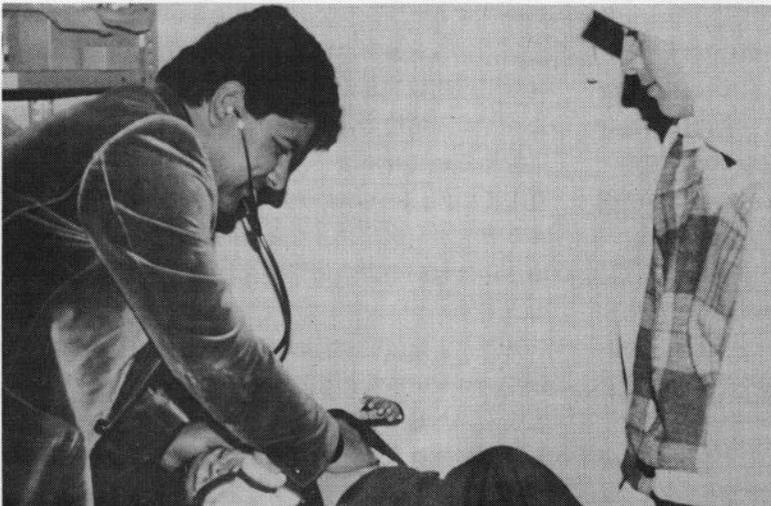
**ICRC** International Committee of Red Cross 赤十字国際委員会

'82年6月のイスラエル軍によるレバノン侵攻が始まって間もなく救援活動を開始し、緊急アピールを出して医薬品や救急医療チーム派遣、活動資金の拠出などを呼びかけた。緊急物資配給は12月までで、

南部の一部を除いて終了している。

現在は派遣員(deligation)がベイルート及びシュウフ、トリポリ、ベカー、サイダ、スールの各地域で、医療施設を巡回して緊急の薬剤等を供給している。特にスールの調整員は、イスラエルが設置したアンサール捕虜収容所内をモニターして、ジュネーブ条約で保証されている捕虜の地位が保全されているかを監視している。

レバノンでは戦乱のため、身体障害者となった人々がおびただしい数にのぼっている。いくつもの機関、団体がこの問題に取り組ん



サイダにある SECOURS POPULAIRE の病院で診察するボランティアの医師

ているが、ICRCもリハビリテーション施設や義手義足のワークショップを開設している。

### UNICEF United Nations Children's Fund 国連児童基金

今回の戦争における被災民の緊急援助活動は12月で終了した。現在は次のような再建計画(Reconstruction Project)を行っている。  
①医療施設の再建整備, ②給水システム・配管の修復, ③学校の再建。特に南部レバノンとベイルートに限定して行っている。UNICEFはレバノン政府の意向にそって、実際には政府が行うべき事業を肩がわりしている。

その他、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と、UNESCO(国連教育科学文化機構)などがベイルートに現地事務所を置いている。

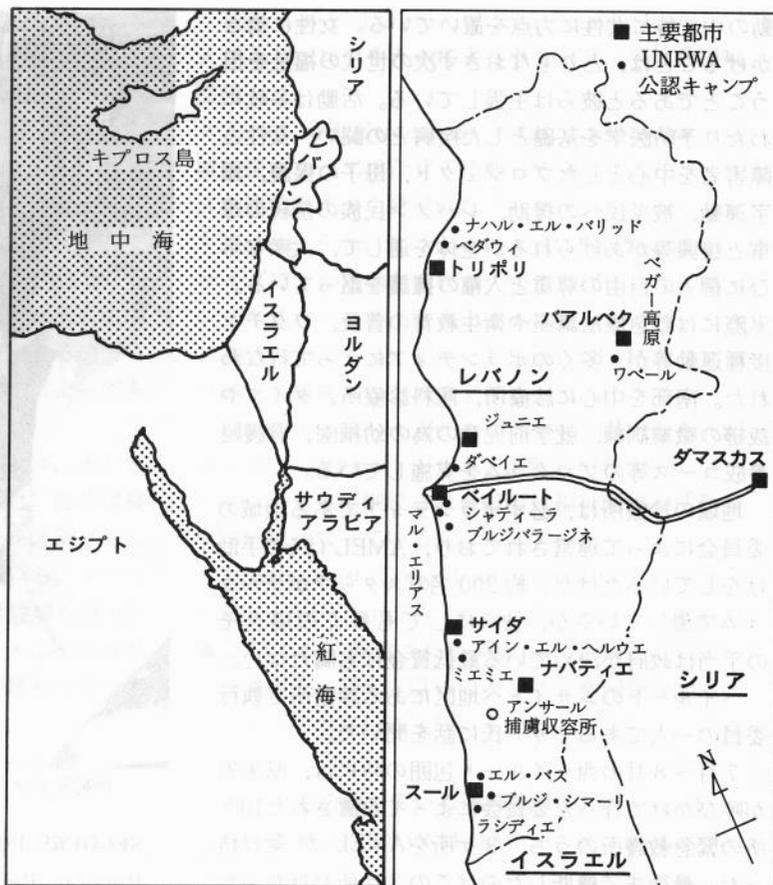
### 民間団体(NGO'S)の活動

#### パレスチナ赤新月社 PRCS (Palestine Red Crescent Society)

1968年にヨルダンで活動開始、レバノンでは翌1969年から始められた。各難民キャンプにクリニックを設置して1970年には病院が完成した。ベイルート市内にはサブラ、シャティーラ地区にガザ病院とアッカ病院がある。レバノン国内だけでも12の病院があったが今回の戦争でその半数が活動を中止せざるを得なかった。75台あった救急車も多くは破壊された。

1981年だけでのべ190万人の患者が来院したがそのうち50%はレバノンで25%がレバノンに居住する外国人、残りの25%がパレスチナ人であった。

PRCSはイスラエルのレバノン侵攻とそれにつづくPLOのベイルート徹退によって、非常に難しい状況に置かれている。つまり12年前正式にレバノン政府の認可を受けて開始されたこの活動も、現在では非合法の組織同然に扱われているからだ。今まで活動して来たヨーロッパ各国のボランティアのビザが交付されない等、様々な妨害にあっている。ICRC



もこの件に関しては発言をひかえているように思われた。

シャティーラキャンプにあるアッカ病院には赤十字の旗が揚げられている。赤新月社の旗をあげることはレバノン政府に禁じられたという。責任者であるオムワリード女史は度重なる薬品、医療機材のレバノン軍による没収に抗議している。

この病院の地下には義手義足のワークショップがありそこには実際に手足を失ない自分たちも義手義足のお世話になっている人達が働いていた。この分野の専門の医師であるバラジ氏は日本の技術を学びたいので、情報を送って欲しいと言っていた。

**AMEL** : アーメル=アラビア語で働く、あるいは労働者という意 (The Lebanese Association for Popular Action)

1978年に設立されて1979年レバノン政府に登録されている。主に都市の医師、法律家、ジャーナリスト等のレバノン市民を中心に南部レバノンの地域社会の開発を目的として設立された。彼らはその活

動の中で特に女性に力点を置いている。女性に働きかけることは、とりもなおさず次の世代の福祉を担うことであると彼らは主張している。活動は多岐にわたり予防医学を基礎とした疾病との闘い、女性と障害者を中心としたプロジェクト、母子の保護、識字運動、被災民への援助、レバノン民族の伝統の尊重と復興等があげられるが全体を通して、大衆ならびに個人の自由の尊重と人権の擁護を謳っている。実際には救急療法講座や衛生教育の普及、ワクチン接種運動等が、多くのボランティアによって行なわれた。南部を中心に診療所、産科診療所、タイプや裁縫の職業訓練、就学前児童の為の幼稚園、看護婦養成コース等のプログラムを実施している。

地域の診療所は、必ずボランティアである地域の委員会によって運営されており、AMELはその手助けをしているだけだ。約200名のスタッフがフルタイムで働いているが、彼らにしても多くの場合その手当は政府が決めている最低賃金にも満たない。

ベイルートのムサイトベ地区にある診療所で執行委員の一人であるイサー氏に話を聞いた。

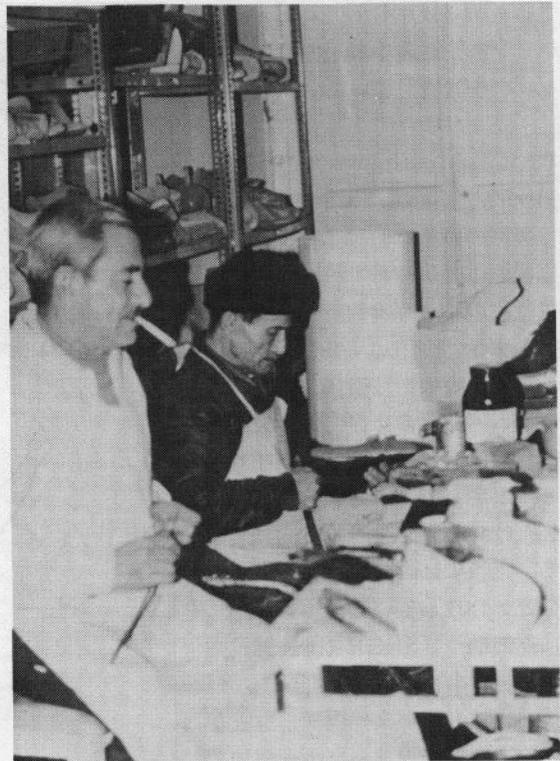
7月～8月の西ベイルート包囲の時には、厚生省が呼びかけて作った委員会によって設置された10ヶ所の緊急救護所のうち、3ヶ所をAMELが受け持った。最後まで機能したのはこの3ヶ所だけだったという。また一方では自分のできる時間にできるだけの労働を提供するというので、定時に病院へ行っても医師が来ていないという批判にもつながった。彼らがボランティア活動に対し「何故この活動が必要なのか」と問い続けていること、つまり動機付けを重視する姿勢は、非常に重要な事のように思えた。

現在のAMELの支出総額に対する事務運営費の割合は7%である。OXFAM AMERICAのダン・コンネルはそのレポートの中で「AMELはレバノンで最も効率的で多様性のあるNGO」と評価している。

財源はレバノン国内の篤志家や宗教団体による寄付の他、海外のNGO'sからの支援も多い。

Novib(オランダ)、Bread For the World(独)、HEKS(スイス)、British Christian Aid、OXFAM U.K.、OXFAM Belgium、OXFAM AMERICA、Medecins Sans Frontieres(仏)、Medecins De Monde(仏)、Enfant Refugee de Monde(仏)、Middle East Council of Churches(レバノン)

以上の団体が資金、人材派遣等で援助している。



PRCSのアッカ病院地下の義手義足ワークショップ

#### SECOURS POPULAIRE LIBANAIS (Lebanese Popular Relief)

SECOURS POPULAIRE LIBANAIS(以下SPL)はレバノンの社会福祉および医療分野の活動を行っている民間団体である。ベカー渓谷、ベイルートとその近郊、南部レバノンで活動を展開している。ワクチン接種運動や学校における衛生教育、地域のクリニックへの援助、クリニック・病院(サイダ、スール、ナバティエ等)の運営等も行なっている。最近になってOXFAM AMERICAの資金援助を受けてベイルートにおけるスラムでの心身障害者のリハビリテーションセンターをパイロットプロジェクトとして設立した。

SPLは南部レバノンで、いくつかの独立した運動として始まった。1972年のイスラエルの攻撃とそれに続く第四次中東戦争は、南部レバノンに社会的・経済的・文化的な荒廃をもたらしたが、同時にそれに対して心ある人々による人道的な活動を萌芽させる動機ともなった。

多くのボランティアの医師、看護婦達が各地域で、独自の活動を起こし、そこに市民が協力して、ひとつの活動の場が生れた。南部レバノン国境地帯で始まった市民参加による診療所運営方式は、その後南

部レバノン全域からベイルートさらにその北方まで広がっていった。その過程は、人々が現状を改善し得るという希望を見出した過程であった。この時期にフランスのSECOURS POPULAIRE と姉妹関係となった。'74年にレバノン政府に登録されている。

SPLは次の原則に従って活動を行なっている。

「病んでいる者、虐げられている者、抑圧されている者を助け、1948年の国連憲章に明記されている人間の諸権利、すなわち、信教の自由、健康に生活し教育を受け労働に従事する権利を擁護する。」「SPLの活動の性格はいかなる政治的地図によっても分類されることを拒否する(後略)。」

レバノン南部の3都市(サイダ、スール、ナバティエ)で彼らの活動を見ることができた。彼らは良質の医療をレバノン人、パレスチナ人を区別することなく提供することをモットーにしている。ナバティエの病院では30人の医師と38人の看護婦が月6万円~20万円位で働き、その他に約300人がこの地域のボランティアとして登録され事務や雑務を受けもっている。

国外の民間団体からの協力もある。OXFAM Belgium, SECOVRS POPULAIRE FRANCAIS からの看護婦の派遣や、CRS(カトリック救済事業団)からは活動に使用する車の寄贈を受けている。このようにSPLは国内国外を問わず政府、民間から支援を受けている。特にレバノン政府との関係では緊密な連絡調整を行っている。

SPLが支援を受けている国外のNGO'Sは次の通り。

SECOURS POPULAIRE FRANCAIS, Simaw (仏), French - Palestinian Medical Society (仏), Catholic Committe to Fight Famine(仏), OXFAM Belgium. SOS(ベルギー), Belgium Committee for Peace, Novib(オランダ), Dutch - Palestinian Medical Committee, Terres des Hommes(オランダ), Swiss Medical Committee, Terres des Hommes(スイス), OXFAM, U.K., Save the Childen Fund(英), Workers Trade Union(伊), Aid Lebanon Society(西独), Support Committee in Democratic Germany(東独), ルーマニア, ハンガリー, ベルギーの各赤十字社, ソ連赤十字赤新月同盟, Middle East Philanthropic Fund in USA

#### その他のNGO's(ローカル)

○ Association Najdeh パレスチナ女性の自立を助ける社会福祉団体

○ Ghassan Kanafani Cultural Foundation レバノン人とパレスチナ人によるボランティア社会福祉団体

○ Zerief and Zeideniyeh Public Committee 地域救援グループ1975年の内戦で後退した公共サービスを建て直すべく発足したグループ

○ Marouf Saad Social and Cultural Foundation サイダでしか活動していない小さな団体、主にキャンプに住むパレスチナ人とともに貧しいレバノン人に働きかけている。Marouf Saadは1975年2月にサイダで暗殺された人の名前。

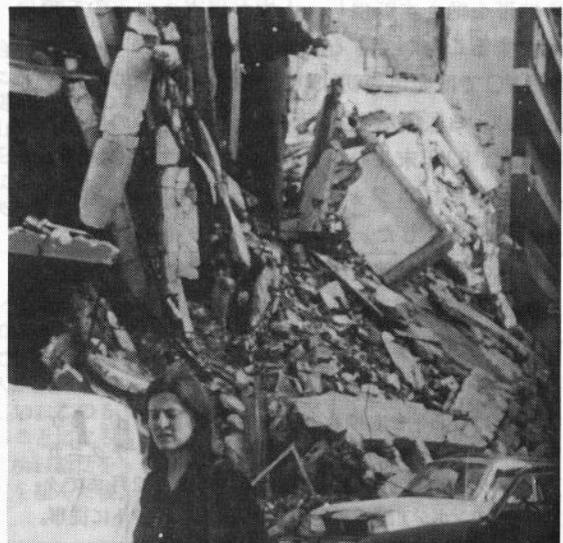
○ Mouvement Sociale レバノンでも歴史のある団体のひとつ。1958年ギリシャ正教大司教グレゴリオ=ハダドによって創設され今日では福祉関係の活動を全国的に行なっている。

○ Middle East Council of Churches: World Council of Churches(WCC)傘下のキリスト教協議会WCCから派遣されたMedical Teamを他団体へ派遣する。WCC以外のキリスト教関係の団体のレバノンでの窓口にもなっている。

#### レバノンで活動している海外のNGO's

OXFAM U.K. OXFAM AMERICA, OXFAM Belgium

MFS = Medecins Sans Frontieres World Vision, Menomte Central Committee, Save the children Federation(USA), American Friends Service Committee, Church World Service, Cathoric Relief Service, Save the children Federation(英)



ベイルートにて、手前は故J・スティーングス氏

## JVCは何ができるのか?

レバノンで取り組まなければならない課題は、

- ①基本的な医療サービスの充実
  - ②身体障害者のリハビリテーションと技術訓練
  - ③母子家庭の自立
- などがあげられる。

JVCが最初にレバノンで取り組むべきことは、現地住民にとって一番有効に機能している医療活動を支援することであると考える。

これまで慢性的に続いて来た戦争によって、レバノン国内には政治勢力、宗派が乱立し、それぞれが私兵を持ち武装している。そのためレバノン中央政府の力は行きとどかず、地域の医療や福祉活動では民間の慈善団体、救援団体に負うところが多い。

特に、人々を政治・宗派によって区別せずサービスしているこれらの団体は、一般住民の信頼を得ている。

高度で複雑な検査や手術を、一部の人々に施すよりも、基本的医療サービスを受けられない人々へ、適切な水準の医療を行い、多数の一般住民の衛生や健康に関する意識を喚起し、向上させることが特に発展途上国において強調されなくてはならない。

一般的に言って、イスラエルの占領下に入っている南部レバノンでは特に、パレスチナ人・レバノン人の人権の保護が問題となっている。政治的・宗教的に中立で、(人権・人間の尊厳を保障することを第一とするという意味での)人道主義を活動の基本とするボランティア団体が、現地(ここではレバノンの)の状況を把握することによって、国際社会が紛争地帯を絶えず監視し、人権が侵害されるのを幾分抑止することができる。

JVCでは発足当初より、緊急救援活動のポイントともいえる医療活動を行うことをひとつの目標として来た。'82年末よりタイ・カンボジア国境でのレントゲン診察プロジェクトという形で、はじめのステップを踏みだした。このプロジェクトを通して、より多くの医師が救援活動の現場に参加する機会をえることであらゆる状況に即応できる医療団を、創設することが期待されている。

たけうち・としゆき；1981年5月渡タイ。3ヶ月バンコク事務所、5ヶ月間カオイダン・テクニカルスクール運営補佐、1982年2月より12月までタイ・カンボジア国境教育物資配布プロジェクトに従事。

### レバノン医療ボランティア派遣プロジェクト

目的：ベイルート及び南部レバノンの被災民に対する医療活動への援助。

期間：1983年7月より1984年6月まで。

実施要領：ベイルート及び南部レバノンで医療活動を行なっている現地のNGOに医療ボランティアを派遣する。医療ボランティアは受け入れ団体の運営する病院や診療所で、現場のシフトに組み込まれて活動する。期間は6ヶ月で交代期に約1ヶ月の引きつき期間をとる。ベイルート市内に連絡調整員が駐在し派遣団体、国際機関、駐レバノン日本大使館、派遣ボランティアとの連絡調整、事務手続き、JVC本部への報告業務、その他派遣ボランティアがその業務を滞りなく遂行する為に必要なすべての業務を行う。

レバノンでの受け入れ団体：SECOURS POPULAIRE LIBANAIS. もしくはAMEL 又は双方。

人員：連絡調整員1名

医療ボランティア2名、(6ヶ月交代計4名)、

予算：1983年7月より1984年6月までの1年間で約9,000,000円

現在資金の調達のため団体、個人に働きかけていると同時にレバノン募金キャンペーンを行っている。(JVCレバノン難民救援募金へ)

### — ファインダー —

裏表紙撮影 竹内俊之

ベイルートの南、ブルジ・バラージネ・キャンプにて。

# JVCプロジェクト

4月5日現在

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
カオイダン (カンボジア難民 キャンプ)	自動車整備学校 3月末のキャンプ人口は58,430人。アメリカへ定住のため5,346人がパナコムへ移動した。技術学校の生徒は3月に544人が終了、一部はさらに勉強を続けている。	UNHCR ロータリークラブ 千葉県	嶋 紀晶※, トンディ 清水 洋子, 田原 勝幸 松本 一仁, 下平 良男
タイ・カンボジア 国境	医療プロジェクト(X線チーム) 1月末のノンチャン難民村への砲撃に始まった、ベトナム、ヘン・サムリン軍のタイ・カンボジア国境中央部に対する進攻は、3月下旬に再び激化した。難民たちは砲撃を逃れて、国境の両側へ移動した。数カ所の避難地ではICR(赤十字国際委員会)による、砲弾・地雷の負傷者のカオイダン・キャンプへの移送、WFP/UNBROによる水・緊急救護物資の配布、民間団体による緊急医療活動、食糧配布が行われている。 X線フィルムを機械による現像法から、手で現像する方法に変えた。かなりの悪路でも移動が可能になったので、これまでのアンシラ、ノンサメット、バンサンが各難民村に加え、プノムチャットコクタハンへも巡回を始めた。3月中の難民村への巡回数のべ16回、撮映枚数149枚。タイ被災民村へ3回、14枚であった。	日本青年会議会 W F P 西本願寺	金子 一弘 柳 茂行 灰塚省二郎
	ナムユン難民村・補助食供給プロジェクト 難民村の妊産婦、乳幼児を対象とした補助食供給タイ人栄養士の指示により難民の母子は、食前にツメを切り手を洗う事にした。習慣となる事を願っている。出席率は依然横ばい状態。貯水池の水がミルクコーヒー色に濁ったため、給水タンクにアメリカ製のフィルターを取り付けたところ、透明な水が得られるようになった。乾期で貯水池の水が減っている。ただ雨期になれば山道がぬかるみに変わり、川の水かさが増すと橋を作らなければ補助食供給センターまで行けなくなる。そしてクメール人達がセンターまで歩いて来る事も困難になる。	W F P	大野 直樹※, 峰野美智子 ジュタワン, イサラック チャイサク, トンチャイ
タイ農村	給水プロジェクト 東北タイ農村での井戸掘り、貯水タンクづくり 2・3月はブリラム県ラハンサイ郡の5カ村で14本の井戸掘りに着工。石盤にあたって掘るのが困難である。村ができたばかりで、村人が家作りや畑の開拓に追われ、人手の確保が難しい。この5カ村でブリラム県での仕事は終了することになる。給水チームは技術面、方法面について検討総括を行い新しいチームの編成と今後の予定を組んだ後、次期のタブラヤ郡の仕事にのぞむ。	モラロジー	木村 信夫※, スラボン 諸見里 勝, 佐藤 正喜

活動地名	活動内容	出資団体	担当者
	<b>農村プロジェクト</b> 北タイ部（ナコンサワン県）4月10～25日、山岳民族部（ランブーン県）4月7～15日に計6名が参加、ラムカムヘン大学の学生の農村開発活動に日本人が加わる計画は4月をもって終了する方向。今後、タイの民間団体の協力を得て何らかの形で続ける計画。	一般寄付	石丸 寧, 三好 浩一 小林 隆, 横井 完治 黒須美智代
タケオ (カンボジア国内)	井戸掘り 地域の診療所での井戸掘り	O X F A M モラロジー	箕田 健一*
パナニコム (第三国定住待ちの人々の一時収容施設)	日本語学校 日本定住希望者のための日本語教育。 2月開講の第7期生は104名で勉強を続けている。オリエンテーションも始め、毎週金曜日にフィルム・スライド等により日本を紹介している。 3月7日より3日間、日本定住調査団がカンボジア人170名にインタビューした。3月11日より、カオイダンから約1万2千人の移動があるので、民間団体の緊急会議が開かれた。JVCの日本語学校は、タイ政府の難民政策と日本政府の受け入れ方針によるが、とにかく83年度は存続する予定。	天 理 教 千 葉 県	谷沢 一江*, 清水 宏 佐藤 和美, 佐々間正一 ティアン
クrontoi・スラム (バンコク市内のスラム)	電気工養成所 スラム住民のための職業訓練 電気工研修所 養成所終了者による電気修理 奨学金援助 スラム児童のための学費援助 図書館 タイの夏休み(3・4月)で子供の利用者が増え、にぎやかになった。タイ人の図書館員が、希望者20人(多くは未就学児童)に読み書きを教え始めた。	神 奈 川 県 モラロジー	福村 州馬*, 高塚 政生 小川ひとみ, 釘村千夜子 イム, スアングビー サムルアイ
御 所 (奈良県)	日本語学校 一時滞在ベトナム難民の日本定住援助 4月23日に第1期生44名が終了。終了式には日本語で感謝の辞が述べられ、日本語の歌、習字、生花などクラブ活動の成果も披露された。3ヶ月間に700単語、漢字の読み265字、書きとり76字を修得した。25日に終了生24名、家族を含め37名が東京品川の国際救援センターに移った。	U N H C R カリタス・ジャパン	平賀 増美*, 伊藤千鶴子 大貫 玲子
	活動内容	担当者	出資団体
バンコク事務所	涉外, ボランティア調整, 資金調達 会計, 総務, 情報収集及び広報	熊岡路矢*, 深津高子, 武田恵治 森本喜久男, エディッサ, 伊藤真理子 カモン, 小池清治, ポンピモン 他約10名	
東京事務所	涉外, 資金調達, ボランティア調整 会計, 総務, 情報収集及び広報 T/E発行	星野昌子*, 田島 誠, 荻野美智子 鶴田三芳, 竹内俊之, 柴田久史 本橋 栄, 他約20名	
京都連絡事務所	涉外, ボランティア調整, 募金, 会計 情報収集及び広報 ちゅあむ・さんばん発行	永井聖子* 他約7名	支持会費 バザー売上

\*はリーダー

## JVCの活動は、みなさまからの募金で支えられています

難民救援活動をより充実したものにするため、以下の募金を受け付けています。ご協力をお願いいたします。

- **インドシナ難民救援募金** (3月小計 378,679円)  
東京事務所を窓口にしてバンコクに送られ、各難民キャンプでのプロジェクト費にあてられています。
- **ボランティア募金** (3月小計 5,290円)  
現地で活動しているボランティアのための栄養および健康管理費にあてられます。
- **クロントイ・スラム募金** (3月小計 461,137円)  
バンコク、クロントイ・スラム内の図書館および電気工養成訓練所の運営費などにあてられます。
- **テッグ・スラム奨学金** (スラム児童奨学金)  
バンコク市内スラムの児童への奨学金などの学費援助、一口いくらでも可。(3月小計 67,000円)
- **JVC運営経費募金**  
事務経費、人件費、通信費等、JVCの仕事を進めて行く上で欠くことのできない資金が慢性的に赤字となっています。(3月小計 10,000円)
- **アフリカ難民救援募金** (3月小計 102,000円)

### JVCより

- 4月18日のベイルートアメリカ大使館での爆弾テロによって、朝日新聞の助手をしていたジャネット・スティーヴンスさんがなくなった。  
彼女は今回のレバノンでの取材に際して、本当の人道主義の団体ならという条件で協力を申し出てくれた。三日間私と共にパレスチナ難民のキャンプと一緒にまわりパレスチナ人とじかに接する機会を与えてくれた。ともすれば国際機関等の援助する側からの取材になりがちだった私は実際に援助を受けている人々の生の声を聞くことができた。  
宗教、政治、経済まで含み込んで様々な派閥に別れて争っているレバノンでは、予測することのできないテロを完全に防ぐことは不可能である。  
中東で行動する場合、この地域の特殊な政治状況に関して無知であることがどれ程危険な事かを強調していた彼女は、アラブ世界で10年以上も仕事をして来た人だった。この紙面を借りて彼女の冥福を祈りたい。(竹内)

### ●レバノン難民救援募金

#### ●日本語家庭教師募金

昨年10月東京の有志によって始められた、定住難民のための日本語家庭教師の輪が広がっています。定住者の家庭は遠いところが多く、交通費が負担となっています。また日本語教材も充実させたいと考えています。

#### ●医療募金

緊急医療活動のための資金となります。  
郵便口座：東京7-96238  
加入者名：JVC東京事務所医療募金係

#### 送金方法

住所、氏名、募金種目名を必ず明記の上、下記  
の郵便口座にお振り込みください。

口座番号：東京9-27495

加入者名：JVC東京事務所

※ 会計の都合上、「Trial & Error」の購読  
申し込みとは別に送金くださるようお願い  
いたします。

### 編集後記

- T/E 24号でもとり上げた流民問題は、4月初め法務省の政策転換によって特別在留許可が出され、一応の解決を見た。厳しい状況にありながら、長い曲折を経て流民たちと支援者らの努力が実を結んだ。
- 4月なかば、日本に定住したラオス人、カンボジア人らによる、いくつかの新年パーティーが開かれた。日ごろ多くの問題に頭を悩ませている彼らだがこの日は晴着に笑顔が映え、民族舞踊や歌が披露され、なごやかな時が流れていた。
- **訂正**  
Trial & Error 25号の5 p. 上から3行目「UNRWAに難民として登録されている数は23,866名」は誤りで、238,667名です。また5 p. 下から2行目の「PLO (パレスチナ解放戦線)」は誤りで、正しくは、パレスチナ解放機構です。訂正してお詫びさせていただきます。

## JVCとは

**Japanese Volunteer Center** は1980年2月、タイの首都バンコクで設立された民間救援団体です。

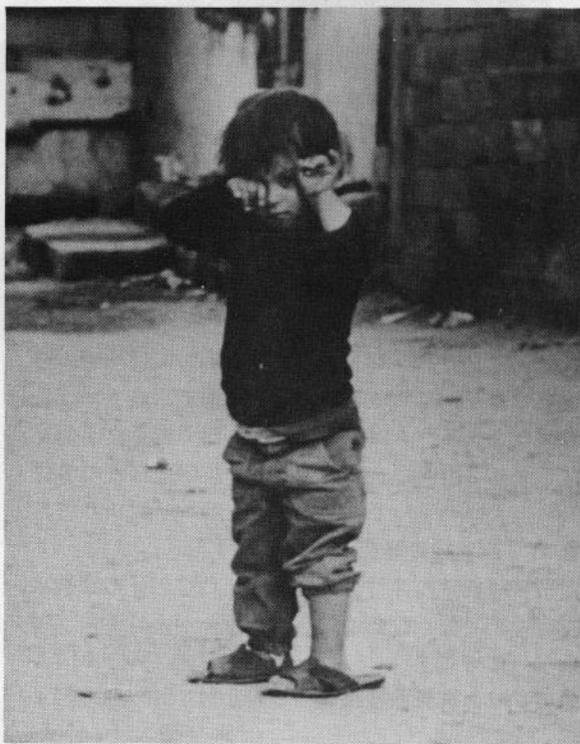
1979年の暮れの、インドシナ難民の大量流出をきっかけに、日本から救援に駆けつけた若者と、現地タイですでに活動を始めていた日本人たちが一体となり、現在の組織の原形ができてきました。

当初はタイ・カンボジア国境への物資輸送など、欧米の民間救援団体を補佐するものでしたが、現在は日本から寄せられる寄付金と各支援団体の援助金により、独自のプロジェクトを展開しています。

JVCは、難民、そしてそれと同様の窮境にある人々に対し、できる限りの援助を継続的に行うことを目指しています。常時50人近くの各国のボランティアが、タイ国内のラオス・ベトナム・カンボジア難民キャンプや、バンコクのスラム街において活動を続けています。

またタイのみならず、カンボジア国内での井戸掘りを実施している他、日本国内でも定住希望者のための日本語教育を行っています。

東京事務所と京都連絡事務所は、こうした活動の情報、人材、資金を現地と結ぶ日本の窓口として機能しています。



**発行所** JVC東京事務所  
 〒166 東京都杉並区阿佐谷南  
 1-1-5 三笠ビル3F  
**最寄駅** 丸の内線新高円寺駅  
**TEL** 03(316)3253

**バンコク事務所** *Japanese Volunteer Center*  
 67 South Sathorn Road  
 Bangkok, Thailand  
**TEL** 286-4857

**京都連絡事務所** 京都市上京区寺町今出川角  
 光月堂2F TEL075(256)1382  
 〈海外ボランティア情報センター内〉

昭和58年5月20日発行

毎月20日発行

**発行人** 星野昌子

**編集人** 本橋 栄

**印刷所** (株)ベスト・プリンティング

### 「Trial & Error」年間購読申し込み方法

一般購読者 1口 3,000円(1冊送付)

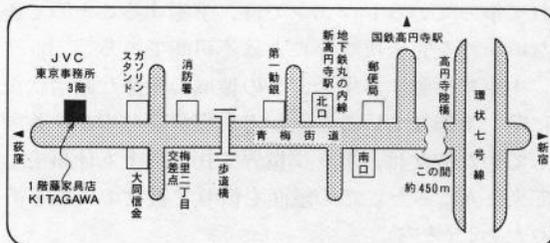
賛助購読者 1口 10,000円(4冊送付)

郵便口座番号 東京3-54186

加入者名 JVC東京事務所

住所、氏名、購読開始月をお書き添え下さい。

Trial & Error は、季刊(年4回)の特集号と、年8回のニュースレターをお届けすることになりました。年間購読料は従来通りです。



ニュース・レター

定価 送料共200円